

## 「ワールド・ビジョン・ジャパン意識調査」の概要

2013年7月18日

特定非営利活動法人

ワールド・ビジョン・ジャパン

### ○調査方法

対 象： 衆参全議員（参議院選挙立候補者）のうち調査票送付可能な方

※全議員 722 人（衆議院定数（480 人）・参議院定数（242 人）のうち 711 人が対象

方 法： 調査票記入による自由回答

調査期間： 2013年6月24日～7月5日

### ○調査結果

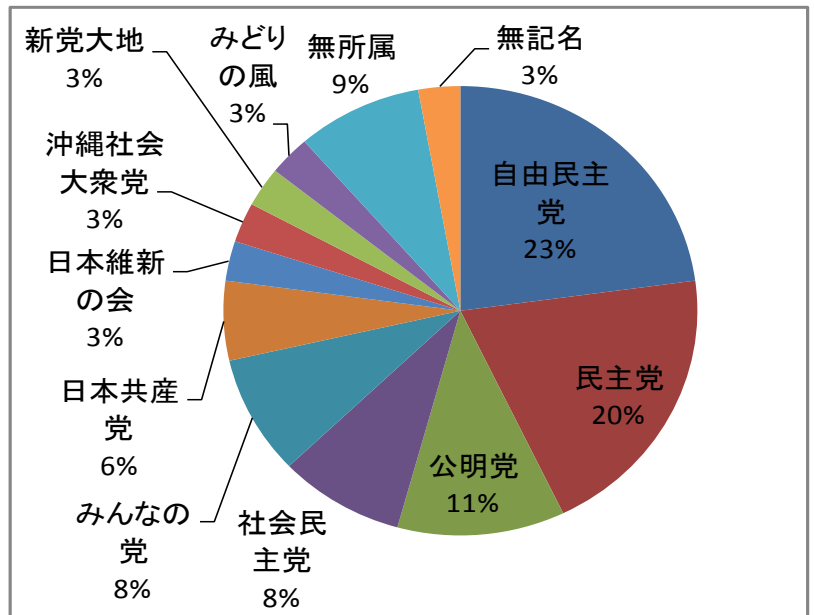
有効回収数 35 人（4.92%）

### ○調査項目

1. WVJ の認知度
2. WVJ のアドボカシーの認知度
3. WVJ のアドボカシーの個別活動の認知度
4. WVJ からの政策提言の有無
5. WVJ から政策提言を受けた分野
6. WVJ からの政策提言による影響
7. MDGs に関する日本政府への要望
8. ポスト MDGs に関する要望
9. 支援すべき ODA 分野
10. WVJ との協力関係

### ○政党別内訳

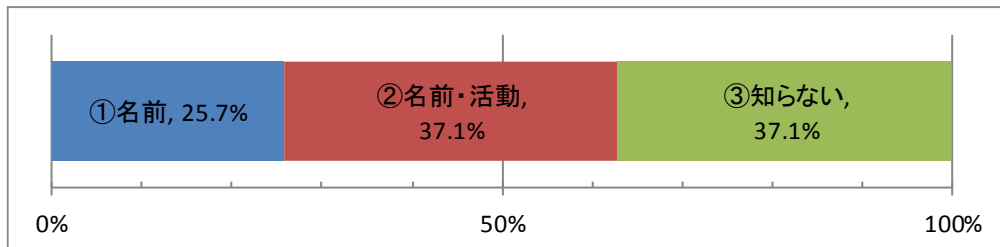
政党名	回答数
自由民主党	8
民主党	7
公明党	4
社会民主党	3
みんなの党	3
日本共産党	2
日本維新の会	1
沖縄社会大衆党	1
新党大地	1
みどりの風	1
無所属	3
不明	1



質問1. あなたは、途上国の子どもたちを支援している国際NGO、「ワールド・ビジョン・ジャパン」についてご存知ですか？

- ①名前だけ知っている 9人 (25.7%)
- ②名前も活動も知っている 13人 (37.1%)
- ③知らない 13人 (37.1%)

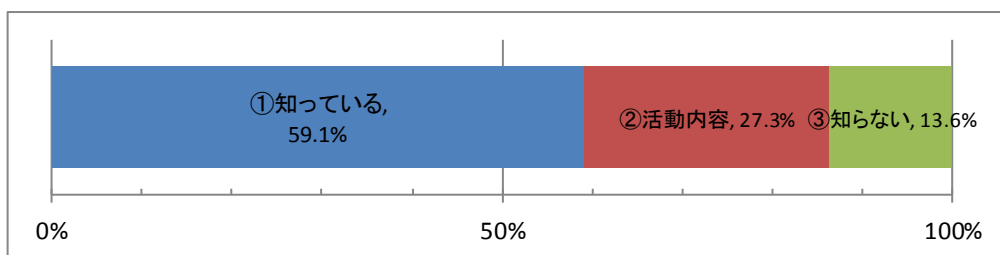
傾向：62.8%の方が名前または活動内容を知っているとの回答であり、有効回答数は少ないものの、その中では多くの方が知っているとの回答であった。知らない方はWVJの名前と活動内容の両方知っている人数と同数であった。



質問2. WVJのアドボカシーについてご存知ですか？（質問1で①または②と回答した方22人のみ）

- ①実施していることを知っている 13人 (59.1%)
- ②活動内容を知っている 6人 (27.3%)
- ③知らない 3人 (13.6%)

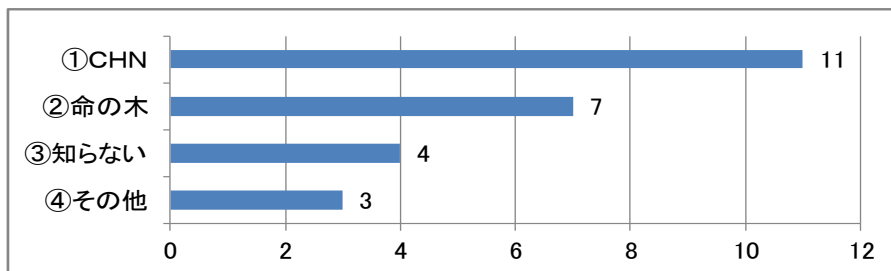
傾向：WVJを知っている方のうち、約半数の59.1%がアドボカシーを実施していることを知っている。活動内容を知っている方も27.3%であり、86.4%が実施または活動内容を知っている。



質問3. WVJが行っているアドボカシーのうち、ご存知なものを教えてください。（複数回答可）  
（質問2で①または②と回答した方19人のみ）

- ①「Child Health Now-アクション！救えるはずの命のために」キャンペーン 11人
- ②命の木プロジェクト 7人
- ③知らない 4人
- ④その他 3人（東日本大震災での支援、チャイルドスポンサー、保健衛生（HIV対策など））

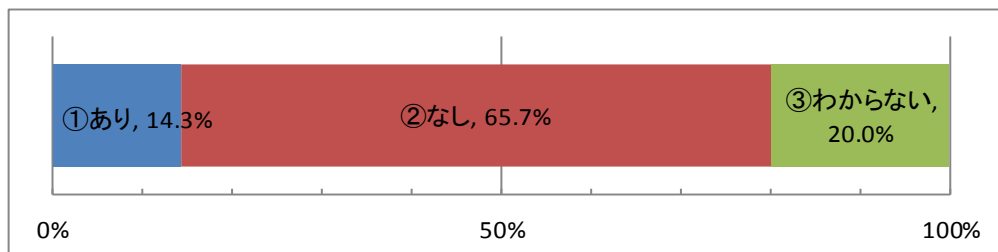
傾向：WVJのアドボカシーを知っている方の内、CHNを知っている方が多い。



質問 4. WVJ から政策提言を受けたことがありますか。

- ① 受けたことがある 5 人 (14.3%)
- ② 受けたことがない 23 人 (65.7%)
- ③ わからない 7 人 (20.0%)

傾向：政策提言を受けたことがある方は約 14%と少数である。

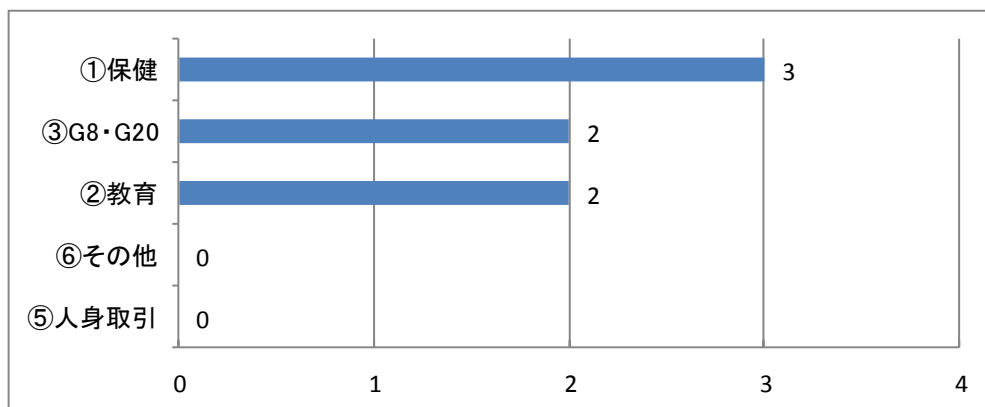


質問 5. WVJ からどのような分野における提言を受けましたか。(複数回答可) (回答者 4 人)

(質問 4 で①と回答した方 5 人のみ)

- ① 保健 3 人
- ② 教育 2 人
- ③ G8・G20 2 人
- ④ 子どもの権利 1 人
- ⑤ 人身取引 0 人
- ⑥ その他 0 人

傾向：WVJ から政策提言を受けたことのある方のうち、保健に関する提言を受けた場合が 1 番多く、教育、G8・G20、子どもの権利と続いた。

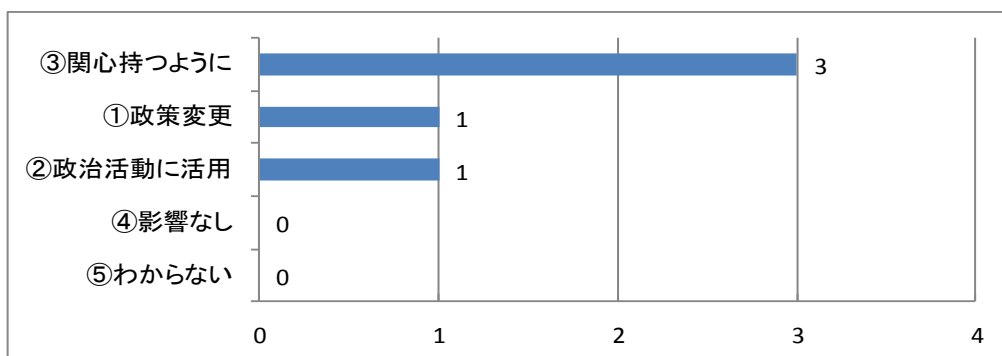


質問 6. 提言を受けた方で、WVJ の提言によりご自身の政治活動が影響を受けたことがありますか。

(質問 4 で①と回答した方 5 人のみ)

①提言を受け政策変更に向け政治活動を行った	1 人
②提言を受け自身の政治活動に活かした	1 人
③提言を受けたテーマに関心を持つようになった	3 人
④提言を受けたが影響はない	0 人
⑤わからない	0 人

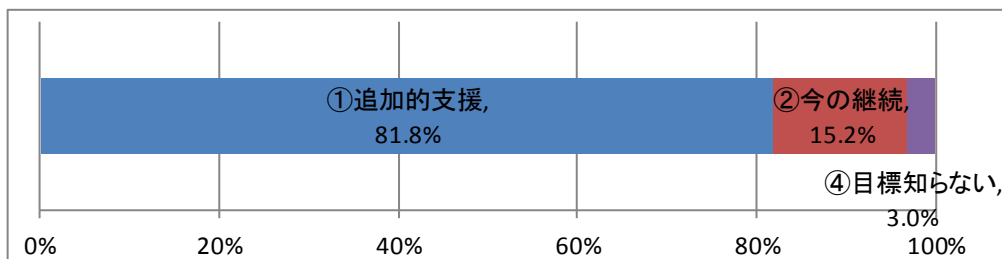
傾向：WVJ から政策提言を受けたことのある方の内、有効回答者すべて（4 人）が何等かの影響を受け、関心を持つ・政策変容・政治活動に活用のいずれかと答えている。



質問 7. ミレニアム開発目標（以下 MDGs）のうち、目標 4「子どもの死亡率の削減」は 2015 年までの目標達成が難しいと言われています。これについて、日本政府はどのようにすべきと考えますか。

①追加的に支援を行うべき	27 人	(81.8%)
②今の支援を継続すべき	6 人	(15.2%)
③対策をとる必要なし	0 人	
④この目標を知らない	1 人	(3.0%)
⑤その他	0 人	

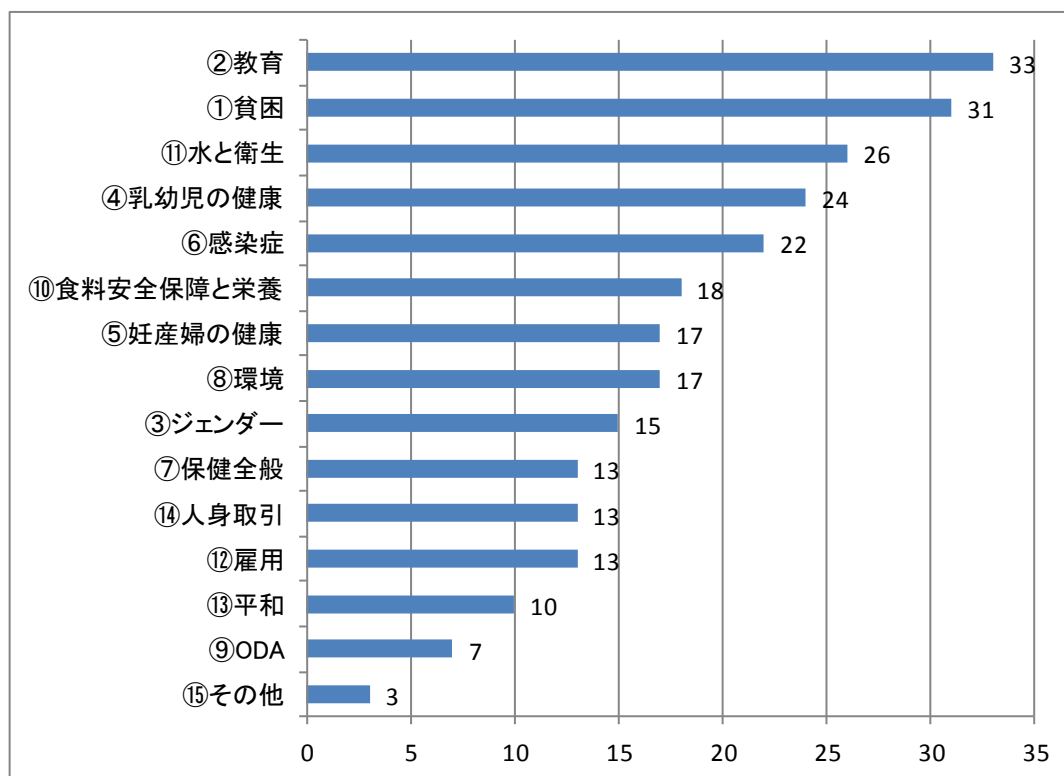
傾向：81.8%が追加的支援が必要と考えている。今の支援を継続すべきと回答したのは 6 人。



質問 8. 現在世界のリーダーの間で議論されている MDGs 後の開発目標「ポスト 2015 開発アジェンダ」ではどのような分野の目標が定められるべきだと思いますか。(複数回答可) (回答者数 35 人)

①貧困	31 人
②教育	33 人
③ジェンダー	15 人
④乳幼児の健康	24 人
⑤妊産婦の健康	17 人
⑥HIV/エイズ、マラリアなどの感染症	22 人
⑦保健全般	13 人
⑧環境	17 人
⑨ODA	7 人
⑩食料安全保健と栄養	18 人
⑪水と衛生	26 人
⑫雇用	13 人
⑬平和	10 人
⑭人身取引	13 人
⑮その他	2 人 (防災、障がい者、薬物依存、フェアトレード)

傾向：上位から、教育、貧困、水と衛生、乳幼児の健康、感染症、食料安全保障と栄養、妊産婦の健康となった。

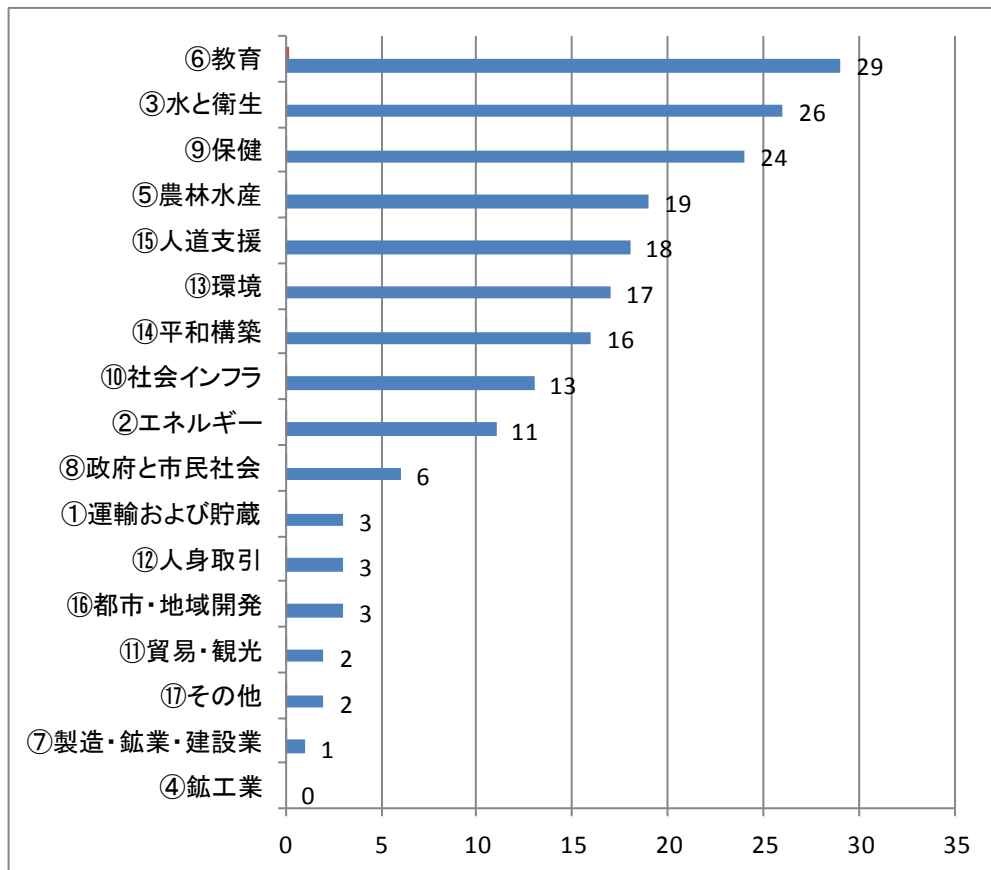


質問 9. ODA 政策において、日本政府はどの分野に力を入れるべきと考えますか。

(複数回答可) (回答者数 34 人)

①運輸および貯蔵	3 人	
②エネルギー	11 人	(うち 1 人クリーンエネルギー)
③水と衛生	26 人	
④鉱工業	0 人	
⑤農林水産	19 人	
⑥教育	29 人	
⑦製造・鉱業・建築業	1 人	
⑧政府と市民社会	6 人	
⑨保健	24 人	
⑩社会インフラ	13 人	
⑪貿易・観光	2 人	
⑫人身取引	3 人	
⑬環境	17 人	
⑭平和構築	16 人	
⑮人道支援	18 人	
⑯都市・地域開発	3 人	
⑰その他	2 人	(再生可能エネルギー、ODA4 原則の順守)

傾向：上位から教育、水と衛生、保健、農林水産となっている。



質問 10. 今後、WVJ との協力を希望されることがあればお知らせ下さい。(複数回答可) (回答者数 30 人)

- ①院内集会・講演会の共同実施 2 人
- ②意見交換 12 人
- ③WVJ からの情報発信 17 人
- ④WVJ のイベントへの参加協力 3 人
- ⑤わからない 2 人
- ⑥その他 0 人

傾向：WVJ からの情報発信を 17 人、意見交換を 12 人が希望している。

